

## 1 生徒の実態

### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	71.7		50.0	
	( 1.14 )		( 0.97 )	
R3 正答率の全国比		73		70
		( 1.12 )		( 1.01 )
		1.13		0.99

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

### (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語、算数共に無回答率が0%だった。調査問題に対して前向きに頑張っていたことが伺える。
- ・記述問題（思考力・判断力・表現力等）が、国語では、全国平均より約13ポイント高かった。特に書くことの内容では、全国平均より20ポイント高かった。算数でも、全国平均より約5ポイント高かった。データの特徴をとらえて記述することができていた。
- ・知識・技能では、算数が全国平均よりも約5ポイント低かった。特にわり算や図形の面積などの基礎基本の問題に課題が見られた。
- ・意識調査からは、挑戦する意識、人の役に立ちたいという意識が高く、前向きに日々を過ごしていることが伺える。一方家庭学習において、計画を立てて取り組むことや家庭での学習意識は、全国平均より低かった。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・基礎知識の定着のため、単元のはじめにレディネステスト・調整を行い、系統性を意識した授業づくりを行う。
- ・平行読書や複数資料活用など、一つの教材のみの授業にならないように意識し、準備をする。
- ・具体的な場面をもとに、計算の意味をとらえさせたり、児童が出した解答に対し、意味を問いかけたりし、解答を出すまでの過程に目を向けさせる。

### (2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習を充実させるため、自主学習を推奨する。全校で自主学習コンテストを行ったり、自主学習週間を設定したりし、家庭学習へ取り組む意識を高めていく。
- ・長期休業中も学習習慣を継続させるため、「〇休み頑張りカード」を配付し、学習時間の目安（低1時間、中1.5時間、高2時間）を示しチェックさせる。